

うごきぬし夜のしら雲の無くなりて高野の山に月て  
りわたる

いにしへにありし聖は青山を越えゆく彌陀にすがり

ましけり

みなみより音たてて來し疾きあめ大門外の砂をなが

せり

大正十四年比叡山で第二回安居會のあつたとき、そのかへりに高野山に遊  
んで出來た歌の中のものである。

しづかなる峠をのぼり來しときに月のひかりは八谷

をてらす

しらじらと谿の奥處に砂ありて遊べる鳥は多からな

くに

これも亦その年に出來た。今から見れば、遠い過去の氣持のものであるが、  
その中には短冊などに書いた歌もあるので、近年作つた歌のやうにもおもは  
れるものがある。

おのづからゆらぎつつゐる紙帳のなかに疲れてもの

をこそおもへ

あまつ日の無くなることを悲しみて踊りし神代おも

ほゆるかも

むなしき空にくれなぬに立ちのぼる火炎のごとくわ

れ生きむとす

寺なかのともりししろき電燈に蠅螂飛び羽をひろ



げて

かういふ歌をも私は昭和元年、昭和二年あたりに作つた。従來の歌といくらか違つてゐるので人目を牽いたものであつた。又歌中、『紙帳』の文字のあるのは、私が歸朝したのは、寒い時だったので、信濃の友人が心配して私のためにこの『シチャウ』を恵んでくれたのであつた。それを私は『カミガヤ』と読んで歌を作つたのであつた。

みちのくに雪解のみづのとどろくと告げこし友を我

はおもはむ

われひとり眼みひらく小夜ふけに近くをとほる兵の

足おと

さ夜ふけと春の夜ふけしひもじさに乳のあぶらを麵

麴にぬりつつ

とりよろふ青野を越えてあゆみつつ神死したりとい

ひし人はも

赤彦はいまごろ痛みふかからむ赤彦をしましねむら

せたまへ

この五首は、「山房の夜中」と題し、大正十五年四月號の改造に載つたものである。この歌集「ともしび」の編輯清書は、ずっと以前（既に昭和四年ごろ）に出来てゐたのであるが、うつかりしてこの五首は脱落してゐた。それを山口茂吉君の厚意で補充することの出来たのは幸福であつた。

信濃路はあかつきのみち車前草も黄色になりて霜が  
れにけり



寒水に幾千といふ鯉の子のひそむを見つところな  
 ごまむ  
 むかうより瀬のしらなみの激ちくる天龍川におりた  
 ちにけり  
 晝しぐれの音も寂しきことありて日ましに山は赤く  
 なるべし  
 石原の湧きいでし湯に鯉飼へり小さき鯉はここに育  
 たむ  
 さむざむと時雨は晴れて妙高の裾野をとほく紅葉う  
 つろふ

私は昭和元年、昭和二年あたり信濃に旅し、また越後妙高山近くに行つて

歌を作つた中に、やや特殊なものがあり、當時人の注意をも牽いたので、こ  
 こに若干抄して置いた。

大きおほ聖ひじいまましし山ゆながれくる水ゆたかにて心たぬ  
 しも  
 常つねならぬものにもあるか月山つづみのうへにけむりをあげ  
 て雪とくる見ゆ  
 わが父も母もなかりし頃よりぞ湯殿のやまに湯は湧  
 きたまふ

一番めの歌は、昭和二年永平寺にてアララギ安居會を開いた時出來た歌で、  
 たびたび短冊色紙などに書いたものである。第二第三の歌は昭和三年夏、山  
 形縣三山參拜の時に作つた。一つは、月山の山上の雪解の景で、莊嚴雄大な



氣持である。一つは、吾々が祖先以來湯殿山を尊崇した氣持で、『湯はわきたまふ』の表現はそれに本づいて居る。

つらなめて目のまへを行く群集の心おごりをわれ旁

看す

心こめし西洋の學の系統もすでにももの憂し秋の夜ご

ろは

もの冷ゆるころとはなりて朝々の薄明より鳥は群れ

立つ

昭和三年には、こんな歌をも作つた。必ずしも歌壇と同行しなかつた歌といふことも出来るやうである。

この歌集に「ともしび」と命名したのは、艱難暗澹たる生に、辛うじて『ともしび』をとぼして歩くといふやうな暗指でもあつただらうか。

本集發行に際し、岩波雄二郎、布川角左衛門、榎本順行、中島義勝諸氏に感謝の意をささげる。昭和二十四年初秋。齋藤茂吉。



發行者寄贈

著者名

藤本 藤本 藤本 藤本 藤本 藤本 藤本 藤本 藤本 藤本

發行所

東京都千代田區  
神田一ツ橋三丁目

株式會社

岩

波

書

店



昭和二十五年一月二十五日 印刷  
昭和二十五年一月三十日 第一刷發行

ともしび

定價參百五拾圓

著者

齋

藤

茂

吉

發行者

岩

波

雄

二郎

印刷者

山

田

一

雄

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地  
東京都西多摩郡霞村根ヶ布三八五番地

落丁本・亂丁本はお取替いたします

株式會社大化堂印刷・製本



發行部

齋藤茂吉著

歌集	歌集	歌集	歌集	歌集	歌集	歌集	歌集
つゆじも	遠遊	遍歴	小園	白き山	ともしび	人磨	人磨
定價三・三〇・三四頁	定價二・三〇・二七・六頁	定價二・〇〇・三八・四頁	定價三・八〇・三〇・八頁	定價三・二〇・三・四頁	定價三・五〇・四・〇六頁	定價四・八〇・五・二六頁	定價六・八一・一・〇二頁

岩波書店刊行

本誌・昭和六年六月







